

公認会計士「研修出向制度」 体験者レポート

vol. 11 取材・文／南山武志 撮影／大平晋也

新日本有限責任監査法人が2010年にスタートさせた、一般事業会社への会計士「研修出向制度」。本制度を活用し、自己成長に励む公認会計士たちのリアル・レポートをお届けする。



経理部で働くのが、昔からの夢だった

— 監査法人では、どのような企業を担当されたのでしょうか？

佐野 監査法人に入所した当初は、IT系ベンチャーなどのわりと小規模の企業のIPO支援などを担当しました。最初にお会いした時にはGパンにTシャツ姿だった社長が、いつの間にかスーツを着るようになり、どんどん忙しくなっていくには上場——そんな成功へのプロセスを目の当たりにした時は、自分のことのように嬉しかったですね。その後、出向するまでは、大手の半導体商社などを担当しました。グローバル展開している企業で、海外監査法人との連携などの経験をさせていただきました。

— 「出向制度」に応募した理由を聞かせてください。

佐野 実は学生時代、数字が好きだったこともあり「企業の経理部に就職するのもいいな」という思いがありました。実際に某企業の経理部にインターンで働かせてもらいました。でも普通に就職しても経理部に配属される保証はありませんから、最終的には好きな会計の仕事が確実にできる、監査法人の道を選びました。そういう経緯もありましたから、この制度には早くから興味を持っていました。

ただ、何ごとも真っ先に手を挙げる性



「ルールにないことにも答えを出す仕事」

— IFRSの導入推進が、佐野さんの主な任務でしょうか？

佐野 はい。経理部には会計、連結、財務、税務のほかIFRSチームがあって、私はそこに所属しています。チームといっても課長と私だけの所帯で、実務面では私が走ればIFRS導入が進み、休めば止まるという状況ですから、重責を自覚して仕事をしています。あとは、会計処理で疑問点が出てきたとか、監査法人にどう説明したらベストとかとかの問題に、意見を求められることもけっこうありますよ。

— 監査法人時代との仕事の違い、面白さ、さらにはそれを経験することで自らを高められた点を教えてください。

佐野 そうですね、例えば情報収集能力。もちろん監査法人でも情報は集めます。ただ事業会社の中になると、例えば海外子会社から上がってきた数字を見ながら、「本当にそうなのか」まで踏み込んだ情報収集をします。

そのためには知識を持つ人たちとの人脈づくりが欠かせません。そういう力を養えたと思っています。

先ほども言いましたが、私は現在のIFRS導入推進を任されています。現在の進捗状況を踏まえてどうやってうまく進むのか、かわる人たちがやりやすいものにできるのかといった点を、自分の頭で考え実行しなければなりません。思い悩むことも多かったのですが、より戦略的、実践的に考える力も身についた気がします。

— 意見を求められることも多いとおっしゃいましたが、どんな答え方をなさっているのですか？

佐野 はたして会計士が答えていい問題かという点も含めて（笑）、ルールにない、ある意味答えがないようなこ

KWE
近鉄エクスプレス

社風のよい国際的な職場で、IFRS業務に従事。自分の成長を常に実感

株式会社近鉄エクスプレス 経理部 主事
佐野宏江 ● 32歳

出向受け入れ企業の声 出向期間の残り約1年と半年。 ミッションを完遂してほしい



株式会社近鉄エクスプレス 経理部長
乾 和雄

佐野さんには、IFRS導入プロジェクトの専任メンバーとして、論点整理、当社に対応した会計方針書の作成、実務レベルに落とし込んだマニュアルの作成に取り組んでもらっている。以前からIFRS導入のプロジェクトチームがあったものの、兼任だったこともあり作業は遅々として進まなかった。彼女に来てもらってから本格的なスタートが切れたわけで、大変感謝している。なお彼女には、グローバルな経理規程の作成、経理部員の教育プロジェクト教材の作成などでも力を貸してもらっている。

会計のプロが間近にいることで、部内の特に佐野さんと同年代のメンバーが、「自分も勉強せねば」と、大いに刺激を受けているのも嬉しいかぎり。今回出向制度を利用したのは正解だった。この制度を定着させるカギは、今後とも彼女のようなエース級を出していただくことにあると思う。

Hiroe Sano Profile

1980年1月31日 静岡県富士市生まれ
2002年3月 横浜市立大学商学部卒業
2003年10月 公認会計士第二次試験合格
中央青山監査法人入所
2007年7月 新日本有限責任監査法人入所
2011年7月 株式会社近鉄エクスプレスへ 出向

とを質問されたりもするんですね。でも「それは答えられない」ではなく、しっかり理論構築したうえで「こうするのが理想では」と対応するよう努力しています。

— 3年の出向期間のちょうど折り返し点を過ぎたところですが、残り1年半の課題と目標を。

佐野 最近、私がいなくなったとしても、しっかりプロジェクトを継続させなければ、という声も聞こえ始めました。今までは決定したことのみをかたちにして残りは削除していたのですが、いくつかの選択肢の中からこれ

格ではないので、まずは「1期生」の動向を横目でにらみつつ（笑）。「これならやれそうだ」と応募したのが、出向の半年前くらいでした。

— 出向先企業について、何か希望はありましたか？

佐野 女性が働きやすく、活躍している会社、あとは月並みですが、業績の安定している企業を希望しました。

取っていたんですね。実際の選考に当たっては、そういう部分も比較的考慮されたようです。近鉄エクスプレスは海外にも数多くの子会社を持つグローバル企業ですから、ある程度の英語力が不可欠だったのだと思います。

— 実際に入社してみても、最初の印象はどうだったのでしょうか？

佐野 当時は本社が移転準備中で手狭だったため、自社倉庫の上の階にある

を選んだ」といった過程を書き残すやり方に、徐々に変わっていています。こうすれば、新しい方針を決める際に、少しでも役立つでしょう。

IFRS導入に関しては、ほぼ思いどおりに進んでいるというのが自己評価です。まずはこのペースを乱すことなく、最後まで走り続けたいですね。